

## 認知症のある人とのコミュニケーション

### —コミュニケーションの3つの役割をもとに考えてみましょう—

#### ①互いに情報を伝える

効率的な情報伝達に用いられるのは、聞く・読む・話す・書くといった言語的コミュニケーションです。認知症などの疾患によって4つの機能がうまく機能しない場合がありますが、4つのうち「できること」残存機能を見つけて活用しコミュニケーションをとることが重要です。

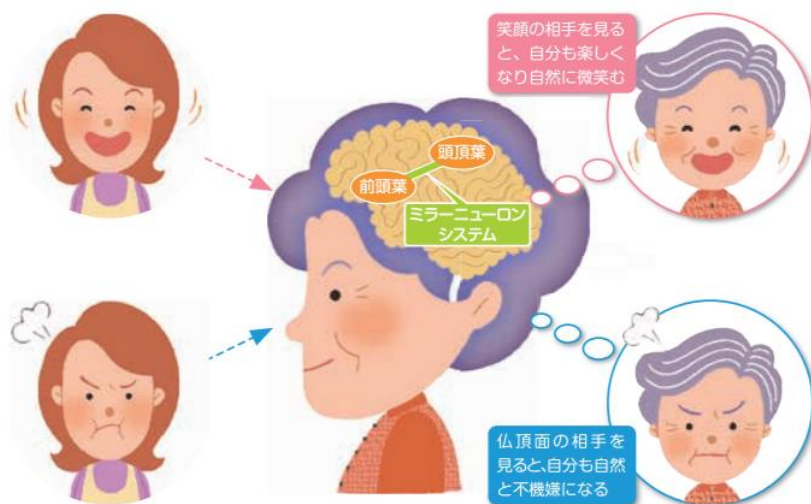
#### ②感情を共有する

認知症のある人も喜怒哀楽といった感情を有し、自己認識して過ごしています。しかし、適切な言葉で表現することが難しいため、受け手側が認知症のある方の感情を察して代弁する役割を担いましょう。

#### ③人間関係を形成する

視線や表情、ジェスチャーといった非言語的コミュニケーションも手段の一つとなります。これらは会話の流れを調節したり話し手と聞き手の感情的なつながりをつくる役割もあります。認知症のある人をひとりの人として尊重し当たり前の人間関係を形成しているか、ぜひ自己点検してみてください。

### 看護師と患者さんは鏡の関係?? 科学的な理由があります!



認知症のある方と接する際にあなたはどんな表情や仕草で関わっていますか？脳内には「ミラーニューロンシステム」という神経ネットワークがあります。良い笑顔を見ると幸せな気持ちになる、あるいは怒った表情を見るとつい自分も不機嫌になる、私たちの会話はミラーニューロンシステムの影響を受けやすいのです。認知症ケアではぜひこのシステムを上手く活用してお互いにより良い感情を共有してみてください。

#### 参考文献・資料

飯干紀代子著：看護にいかす認知症の人とのコミュニケーション 現場で使える理論とアプローチ (株)中央法規出版 2019.  
社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修 大府センターHP 「笑顔で介護! 『ここにこりハ』で心もにっこり」冊子より